県立広島大学保健福祉学部看護学科「学生生活通信」　～保護者の皆さまと学科をつなぐほっとライン～

しまなみだより

第 11 号　2018 年 10 月発行

７月の豪雨災害で本学への直接的な人的・物的被害はなかったものの，断水，浸水および土砂による交通網の遮断等により７月９日（月）より１週間休講といたしました。７月 16 日（月）から講義を再開し，土日には補講を行いました。一部地域の断水や交通が不便な状況が続く中でも学生たちが講義や実習に真摯に取り組み，被災者支援を行う姿に励まされた教職員も多かったと思います。保護者の皆様にはご理解ご協力いただき誠にありがとうございました。被害に遭われた皆様，亡くなられた方々に心よりお見舞い申し上げますと同時に一日も早い復興をお祈りいたします。

（看護学科長　松森直美）

災害ボランティアへ行く学生

８月の活動状況

豪雨災害被災地での支援活動

７月の豪雨で三原市は甚大な被害を受けました。そこで学生が支援活動に携わりましたのでその様子をご報告いたします。

保健師課程の学生は実習として教員と一緒に本郷町避難所を訪れ，広島県東部保健所と広島県臨床検査技師会による「DVT 検査（エコノミー症候群の予防検査）」に参加しました。また避難所に常駐している災害支援ナースから，被災者の生活実態を把握し，生活課題を明確にするとともに病気の予防への支援に協力している様子を聞き，学生は災害時の医療従事者の役割を学びました。これらの経験を通して学生は，災害時のプライバシーの保護の大切さや個々に応じた支援の難しさを感じていました。

また，「何かしたい」という思いから補講や試験でハードスケジュールのなか，個人的にボランティアなど地域活動をする学生がいました。その後，夏休みに入り大学として被災地の支援を行うことが決定され，学生，教職員共々ボランティア活動をしました。被災地で学生は家や畑の土砂の除去，家の清掃など，１日でも早く住民の皆様が元の生活に戻れるよう願いを込めて力強く活動をしました。活動中に，被災された方から当時の貴重な体験を聞かせていただき，また県外から支援に来ている方と交流するなど，人が人を支える重要性を学びました。三原市が元気になるように被災地で継続した活動をしていきます。

（広報担当）

避難所で DVT 検査を見学する様子

学生のボランティア活動の様子

TOPICS

1年生から白衣をリニューアル！

今年度から学生の白衣を変更しました。デザインは，学生と教員の投票により，投票数の多かったものに決定しました。袖には県立広島大学のロゴマークの刺繍を入れています。また，女子学生の白衣には襟と袖，男子学生の白衣には前開きファスナー部分と袖に，紺色のラインが入っています。これまでの白一色のものよりも学生らしいデザインになりました。

１年生は，６月から新しい白衣に袖を通し，初々しい笑顔で演習に臨んでいます。

（池田ひろみ）

新しい白衣で記念撮影

授業紹介

老年看護学概論

「老年看護学概論」では，卒業後に力強く生きるため，根拠ある看護実績に基づく「知識・理論」の学修と地域の課題を解決できる能力の育成を目指した授業を行っています。グループでの課題学修も多く，「あなたがナースならどうする？　看護部長なら？　市長なら？　知事ならどう対応しますか？」という疑問を投げかけて「思考力・判断力等」を養っています。同時に，高齢者差別や人権の尊重，格差のない社会保障の実現のために権利擁護の態度を養う人間性陶冶にも力を入れています。毎年，高齢者疑似体験を通じて虚弱高齢者の心理の考察を行い，公共建造物や街並み調査から三原市のユニバーサルデザインによる街づくりへの提言を行います。さらに地域包括ケアの課題整理を目的として，二次医療圏や市町のビッグデータを分析し高齢者政策について発表しました。その発表を聞き、学生の表現力の成長に驚かされます。AI 時代を生きる学生には，地域の主体となり広島県のリーダーとして育ってほしいと願っています。

（狩谷明美）

学生が発表している様子

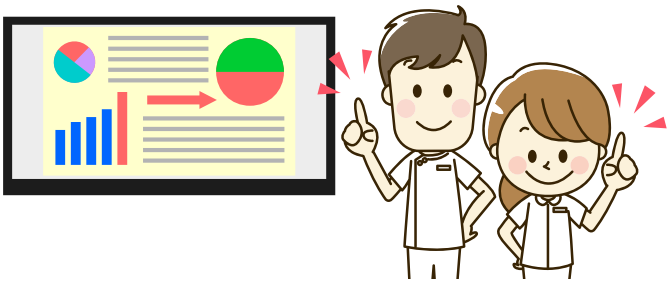
公衆衛生看護活動論Ⅱ

この科目は，保健師課程の３年次生で受講します。授業では，市町の統計データや各種調査結果，また住民の声などから，地域で生活する人々の健康状態や地域の環境について，どんな健康課題があるのか分析し，保健行政としての対応策を考える方法を学びます。保健師活動では，統計データなどから健康課題を見つけて，その解決方法を健康教育という方法で住民に伝えます。その健康教育の方法論を学修し，学生間で発表します。

今年度は，４年次生が実習で作成した健康教育指導案を用い，３年次生を対象に実演し，地域住民の実態に応じた実践方法を具体例で学ぶ時間を設けました。この取り組みは，３年次生の来年度の実習への意欲を高める機会となりました。

（水馬朋子）

４年次生の健康教育を見学する学生

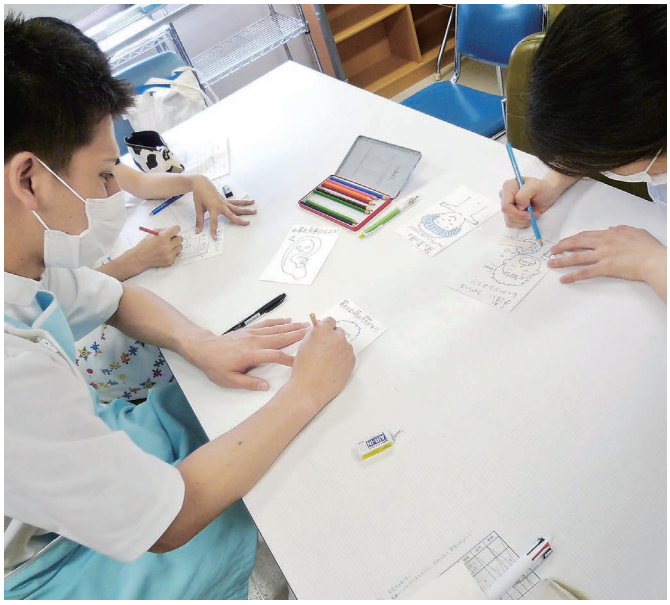


小児看護実習

今年度の小児看護実習は７月の豪雨災害により実習延期となり，最後のグループが８月初旬に保育所での補充実習を行い無事に終了しました。実習前に子どもとの関わり方に不安を感じる学生が多くいましたが，実習を通して子どもの成長する力を知り，地域で暮らす子どもたち，病院や施設に入院する子どもと家族への理解を深めることができました。

写真は手術を受けた６歳の子どもへの退院指導の資料を作成している様子です。子どもが対象となるので，伝える内容を厳選し文字とともに絵で伝えます。限られた実習時間の中，講義で学んだ知識を活用し，学生同士で助け合いながら作成しました。手作りの資料を手渡すと，子どもはとても喜び説明をしっかりと聞いてくれました。これらの実践を通して，学生たちは看護の対象である子どもに病気や治療のことを伝える大切さやその工夫を学んでいました。

（鴨下加代）


子ども用の資料を作成する様子

出来上がった資料

▶▶▶ 卒業生の活躍 ◀◀◀

卒業研究の紹介

山崎沙依さんの「へき地で暮らす子育て中の母親の妊娠から子育てに対する助産師の役割に関する研究」を紹介します。庄原市総領町は節分草で知られた里山の美しい自然に恵まれた地域です。人口約 1400 人，65 歳以上の人口は 43%，年間出生数 10 人未満。この総領地域で子育中の母親を対象に，「へき地で子育てする母親の体験と思い」というテーマでフォーカス・グループ・インタビューをしました。卒業研究を通して，将来は，お母さんの思いに寄り添いつつ強さを引き出し，地域での子育てを見据えた仲間作りや子育てネットワークづくりもできる助産師になりたいと，熱く語ってくれました。今年の４月から助産学専攻科に進学し頑張っています。

（岡田麻里）

調査に協力して下さったお母さんたちに成果発表

子どもたちも一緒に交流しました。みんな可愛いね。

卒業研究を学会で発表しました

昨年度卒業した，清川智之君（右）と小倉彩華さん（左）が，日本看護研究学会で卒業研究の成果を発表しました

毎年，卒業研究の成果を国内の学会で発表しています。平成 29 年度の卒業生は，日本医学看護学教育学会で９名，日本看護研究学会で２名，日本看護医療学会で２名，看護技術学会で１名が発表しました（９月現在）。堂々とした姿に成長を感じます。

（山中道代）

教員の紹介　老年看護学　講師　渡辺陽子

老年看護学の渡辺陽子です。ご高齢の方への看護を実践する方法や，認知症看護について学ぶ講義や実習を担当しています。ご高齢の方への看護は「これ！」という正解もなく難しいですが，正解がないからこそ，ケアを創造しながら実践する，というやりがいもあります。それを学生さんに伝えられたらいいな，と思っています。

大学のある三原市の出身で，長く三原に住んでいます。西日本豪雨では自然災害の怖さに直面し，同時に，生活を支援する医療福祉専門職の役割の大きさ，大切さを実感しました。そして，災害支援ボランティアで活動する看護学生さんの姿をとても頼もしく感じました。学生の皆さんにとって，山あり海ありの，この三原で過ごす４年間が有意義なものとなるように，サポートできればと思っています。

看護学科「学生生活通信」についてご意見，ご感想などお寄せ下さい。
〒 723-0053　広島県三原市学園町 1-1
TEL：0848-60-1120（代表）　FAX：0848-60-1134（代表）
E-mail：nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
URL：http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/nursinq/
発行：県立広島大学保健福祉学部看護学科　広報係

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima